

氏 名	周 応 恒
学位(専攻分野)	博 士 (農 学)
学 位 記 番 号	農 博 第 1017 号
学位授与の日付	平成 10 年 7 月 23 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 4 条 第 1 項 該 当
研 究 科 ・ 専 攻	農 学 研 究 科 農 林 經 済 学 専 攻
学 位 論 文 題 目	中国における農産物流通政策と流通構造の展開に関する研究
(主査)	
論文調査委員	教 授 稲 本 志 良 教 授 嘉 田 良 平 教 授 野 田 公 夫

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は、急速な制度変革を遂げてきた中国における農産物流通体制の展開過程を体系的に分析することを目的としている。研究の基本的課題として、第1に、統制流通制度成立の意義、展開過程並びにその崩壊要因を明らかにすること、第2に、今後の流通体制整備のあり方を検討するという視点から、経済体制改革以降の制度の展開過程及び流通体制の現状と問題点を明らかにすることとしている。本論文では、農産物市場構造分析の枠組を援用し、中国における農産物流通体制を対象に、基本的には、(1)集権計画経済体制下の統制流通制度が構築・強化される時期(1953～1978)、(2)1970年代末に始まった経済体制改革以降の市場流通に向けた制度変革及び市場再編期の2段階にわけて、各時期毎に農産物流通政策の成立背景とその性格、展開過程、及び、流通組織構造の2側面をなす流通経路構造と流通主体の競争構造に焦点をあてて、分析を行っている。

特に、第1章では、農産物統制流通制度の成立、背景と政策目標を考察し、主に農産物の買付・配給・市場管理の3側面から統制政策の内容とその強化の過程を明らかにしている。

第2章では、統制流通制度下の管理組織の構成とその機能、統制価格の性格に関する考察を通じて、統制流通制度の仕組みと構造的特徴を論理的に把握し、農産物統制流通制度が内包する問題点を明らかにしている。

第3章では、1970年代末から今日までの間に推進されてきた農産物流通制度変革について、それ以前の統制流通制度の諸政策手段が如何に転換されたかという視角から分析し、さらに、自由市場流通制度への転換の到達点を、主に統計分析によって把握している。

第4章では、市場流通体制の整備に向けて、統制流通制度廃止以降の農産物流通政策の体系が如何に整えられてきたかを明らかにするために、「菜藍子プロジェクト」を中心とする生鮮食料農産物の市場再編政策を対象として、分析・検討を行っている。第5章では、現段階の農産物の流通経路の構造を把握するために、青果物流通の中心的位置にある卸売市場を対象に、実態調査を通じて、その運営の仕組みと問題点を明らかにしている。

最後に第6章では、卸売市場における農産物流通主体の構造と行動を、実態調査により、特に出荷・販売主体とその組織化の実態把握に基づき分析している。

以上の中国における農産物流通体制変革の過程の時期別の分析を通じて、次のような結論を得ている。即ち、統制流通体制は、重工業優先の工業化発展戦略をとる後進的農業国としての中国が、農業から工業化の原資を吸収することを目的とし、農民から低価格で農産物を買上げ、それを低価格で都市住民及び軽工業に配分するための政策的、制度的な仕組みであった。こうした制度のもとで、国家が行政強権を発動し、自由市場の閉鎖と国家独占により、農産物に対して「計画的買付と計画的販売」を行うこととなった。こうした統制流通制度を通じて、農業余剰の完全な国家支配により工業化の推進目標が一応達成されたものの、農業生産の停滞、農村の疲弊と農民の貧困が生まれることによって、工業製品の市場が失われ、国民経済の成長が行き詰まる状態に陥っていった。このことが1978年から始まった経済体制改革の要因となった。

以降、農産物流通体制は、市場流通志向の制度再編段階に入った。これまでに進められた農産物流通体制の変革は、統制流通制度の仕組みを、漸次、取り除き、それに代つて市場メカニズムを導入する過程であつた。こうした変革によって、1990年代初頭には、旧来の統制流通制度がほぼ解体し、流通自由化への転換が実現した。しかし、統制体制の解体が直ちに効率的な市場体制の形成には繋がっていない。すでに、卸売市場が農産物流通の中心となっているものの、流通業務の分業化と流通経路の体系化、卸売市場の機能充実などが進んでいないため、流通の非効率性が問題となっている。今後の農産物流通体制の整備においては、これらの改善のために、流通主体の育成と卸売市場に関する法の制定、制度の確立が最優先課題となっていることを明らかにした。

論文審査の結果の要旨

中国は、1970年代末にそれまでの集権計画経済体制から市場経済体制への移行という大きな経済体制改革を実施し、現在、多くの経済局面においてなお変革・整備の過程にある。農産物流通体制の変革・整備もその主要な局面の1つである。本論文は、このような状況を踏まえて、統制流通制度成立の意義、展開過程並びにその崩壊要因を明らかにすること、今後の流通体制整備のあり方を検討するという視点から、改革以降の流通制度の展開過程及び流通体制の現状と問題点を明らかにすることを課題としている。この領域の中国内外の既存研究、膨大な政府文書・統計の徹底した分析、及び、流通主体、流通経路、取引実態に関する自らの適切、克明な実態調査と分析によって、上記課題を解明している。本論文の評価すべき点は以下の通りである。

その第1に、従来、明らかでなかった1978年の市場経済化に至る集権計画体制下の変化を、その導入期（1953年から54年）、成立期（1955年から56年）、安定期（1957年から78年）の3段階に分けてその内実と背景を具体的に明らかにしている。

第2に、1978年以降の経済体制改革期における市場再編政策として求められる流通主体のあり方と卸売市場に求められる機能に関して、農産物直接統制制度の緩和期（1979年から84年）、直接統制を温存しながらの市場流通の拡大期（1985年から91年）、市場流通制度への全面的移行期（1992年以降）の3段階に分けて主要課題を明確かつ適切に示している。

第3に、綿密な実態調査に基づく実証研究を通して、これまで研究蓄積の乏しかった農産物流通分野、特に、生鮮農産物の市場政策について、最新施策である「菜藍子プロジェクト」の実態と問題点を明らかにし、新たな知見を提示している。

第4に、わが国の農産物市場流通論において定着している農産物流通体制分析の枠組み（「藤谷モデル」）を援用して、中国における政治・経済的背景、経済運営原理の異なる経済体制改革の前・後期の間の、また、インフラストラクチャー、経済発展・市場経済段階を異にする中国と日本の間の、農産物流通制度・政策の体系的な比較分析に端緒を開いている。

以上、本論文は、既存研究、膨大な政府文書・統計の徹底した分析、及び、流通主体、流通経路、取引実態に関する自らの適切、克明な実態調査と分析によって、中国における統制流通制度成立の意義、展開過程並びにその崩壊要因、経済体制改革以降の流通制度の展開過程、流通体制の現状と問題点を明らかにし、今後の流通体制整備のあり方を提示しており、農産物流通政策論、農産物流通市場論、中国農業経済論、及び、中国における流通政策・体制整備に向けた実践面に寄与するところが大きい。

よって、本論文は博士（農学）の学位論文として価値あるものと認める。

なお、平成10年6月18日、論文並びにそれに関連した分野にわたり試問した結果、博士（農学）の学位を授与される学力が十分あるものと認めた。